

論文タイトル: Myopia control with orthokeratology contact lenses in Spain: A comparison of vision-related quality-of-life measures between orthokeratology contact lenses and single-vision spectacles (スペインにおけるオルソケラトロジーコンタクトレンズの近視進行抑制:オルソケラトロジーと単焦点眼鏡との見え方に関連した生活の質(QOL)の測定の比較)。

掲載雑誌、年、巻、頁: Eye & Contact Lens 2013;39(2):153-157.

著者名(所属): Santodomingo-Rubido J(メニコン スペイン)、Villa-Collar C(Novovision)、Gilmartin B(Aston 大学)、Gutierrez-Ortega R(Novovision)

概要: 小児におけるオルソケラトロジーコンタクトレンズ(OK)の装用は、単焦点の眼鏡と比較して総体的な見え方、遠見視力、症候、外観、満足度、活動性、学業成績、友人関係および総合評点において有意により良好でした。試験終了後、子供たちの保護者は OK 装用の継続を希望する割合が多く、OK が受け入れられやすいことが分かりました。

オルソケラトロジーコンタクトレンズ(OK)により近視進行抑制の可能性が報告されています。本研究では、OK および単焦点眼鏡(SV)を 2 年間使用している小児における見え方に関連した生活の質(QOL)を比較しました。球面度数-0.75~-4.00D の近視および円柱度数 1.00D 以下の乱視をもつ 6~12 歳の小児 61 人を対象とし、OK (メニコン Z Night レンズ(日本国内未発売))を 31 人、SV を 30 人に割りあてました。総体的な見え方、近見視力、遠見視力、症候、外観、満足度、活動性、学業成績、取り扱い、および友人関係の点から小児の知覚を評価するために、小児科用の屈折異常プロフィールスコア(QOL を表すスコア値)のアンケートを試験開始の 12 および 24 ヶ月後で実施し、全ての項目の中間値スコアを総合評点として算出しました。試験終了後、保護者に子供の視覚矯正度合を評価し、装用を継続したいかどうかの意志についてアンケートしました。

OK を装用した小児は、SV を装着した小児よりも、総体的な見え方、遠見視力、症候、外観、満足度、活動性、学業成績、友人関係および総合評点において有意により良好であったと回答しました(全て $p < 0.05$)。SV での近見視力および取り扱いは、OK に比較して、それぞれ、より良好($p < 0.001$)および同様($p = 0.44$)でした。

OK を装用した小児の保護者は、屈折矯正法として、SV を装着した小児の保護者よりもより高い評価をし、OK の継続装用を希望しました($p \leq 0.01$)。

これらの結果は、OK 装用での見え方に関連した QOL が良好であることを示し、また、OK が受け入れられやすいため、近視進行抑制を目的として小児に OK 装用を勧める誘因となることを示しています。

解説:

オルソケラトロジー: 特殊なカーブデザインが施された酸素透過性ハード CL を就寝時に装用することで角膜形状を変形させ、主に近視などの屈折異常を治療する角膜矯正療法。

近視進行抑制: 2014 年 1 月 31 日更新の研究結果資料を参照ください。

